

# 「昭和天皇 摂政宮当時、大正十一年に越谷鴨場へ二度ご行啓」

坂本 誠一郎

## 一 はじめに

『越谷市大林の宮内庁埼玉鴨場』は、明治四十一年十二月に竣工され、皇族方の主なご行啓につきましては、今まで私の知る範囲ですが、郷土史書に次記の通り発表されてきました。

- ① 最初に鴨場にお越しなされたお方は、明治四十二年二月二十八日、大正天皇が皇太子当時に、ご行啓。（\*1）
- ② 次いで同年六月十七日、明治天皇のご皇后・昭憲皇太后がご行啓。（\*2）
- ③ 時間を置いて昭和天皇がご来駕されたのは、昭和三十二年三月十一日に、天皇、皇后両陛下をはじめ皇太子や皇族が揃って鴨場を訪れ鴨猟を楽しまれたとあります。（\*3）
- ④ また、昭和天皇、皇后両陛下には、昭和四十二年十月二十三日、埼玉国体が行われた際、越谷市立体育館のバトミントン会場にて試合をご覧になられた記事を目にしていました。（\*4）
- ⑤ 右記の他にもご行啓がなされていないものかと長い間、気に留めていましたが、今般図らずも第二項記載の通り、新たに昭和天皇越谷鴨場ご行啓の史実が明らかとなりましたので、記させて頂きます。

## 二 新たに判明しました史実

（お詫び） 「史実その壺」と後段の「史実その式」とでは、時系列的には、逆順序表示でございましてので予めお含みの上、ご高覧・御理解賜りますれば幸いです。

## ■ 史実 その壺 ■

大正十一年三月二十六日、昭和天皇は、当時は、「摂政宮」であられました。鳩彦王（後の朝香宮）を同伴され埼玉鴨場まで、自動車+愛馬（山吹号）に乗られ御遠乗されていまして。

「その史実の証明記録」

（その①） 昭和天皇実録（第三集） 大正十一年三月二十六日の記録（\*5）

埼玉鴨場へ  
御遠乗

二十六日 日曜日 午前七時五十分御出門、自動車にて岩淵町の東京陸軍兵器庫までお成りになり、それより山吹号に召され、鳩彦王御同伴にて埼玉鴨場まで御遠乗になる。御到着後、埼玉県知事・同警察部長・郡長らに謁を賜い、それより午前、午後、それぞれ一回ずつ鴨猟を行われる。帰途は御乗馬にて草加を経て千住へ向かわれ、千住より自動車にて御帰還になる。

○東宮侍従日誌、東宮職日誌、今上陛下御乗馬誌、宮内省省報、奈良武次日記、東京日日新聞

(その②) 川口市新井宿に建てられた石碑(\*6)

「表題 摂政宮殿下 御小憩所」「記念碑の設置場所 赤山陣屋から伊奈氏菩提寺  
(源長寺)への入口付近にかけての赤山街道、道路脇」

「『行啓史実』の表記場所は、その記念碑の裏面です。」

「維時大正十一年三月二十六日 畏くも摂政宮殿下文武官数多従へさせられ、越ヶ谷在鴨御  
獵場に行啓遊ばさる。偶々御道筋たる赤山街道御通過の砌、当村の此の地に於いて御下馬あ  
らせられ小時御休憩の光栄を賜ふ。奉迎奉拝の村民等齊しく恐懼感激措くところを知らず。  
乃ち碑を建て永く聖跡を祈念し奉る」

建立は、「紀元二千六百年記念 昭和十五年二月建之 神根村  
浦和高等学校教授 秦 慧玉謹書 「石工」 当村 木村伝之助謹作



(その③) 平成元年一月二十七日付け「鳩ヶ谷新報」(▼次頁参照)(\*7)

若き日の「昭和天皇」 馬で鳩ヶ谷をお通り 大正十一年、越谷鴨猟へ



馬上から手をあげて鳩ヶ谷町民の歓迎に応えられる昭和天皇陛下。  
桜町の豊田元収入役宅前あたり。



昭和天皇実録には、鳩彦王(後の朝香宮)をお伴にと記載されており、ご参考までにインターネット(朝香宮鳩彦王-Wikipedia)より、お写真を貼付させて頂きましたのでご覧下さい。私見ですが、軍服姿の御顔と転写写真の御顔を比べればよく似ておられる。

# 若き日の「昭和天皇」 馬で鳩ヶ谷をお通り

## 大正11年、越谷鴨猟へ

町民が熱狂ご歓迎、貴重な写真現存

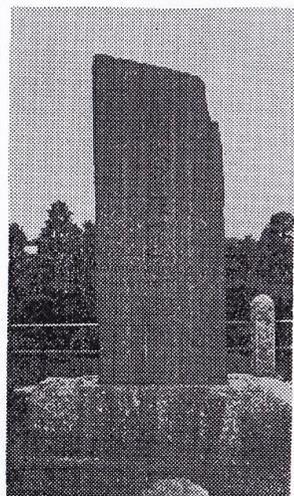
昭和64年1月7日午前6時33分大行天皇は崩御され、翌8日から平成元年がスタートした。大行天皇すなわち「昭和天皇」は摂政宮であった大正11年3月、馬に乗られ、越谷の鴨猟にいかれる際、鳩ヶ谷町を通過され、町民あげて熱烈歓迎した。これを知る人も少なくなったが、その時の貴重な写真も現存している。また新天皇も皇太子時代、美智子妃とともに埼玉国体においてになった際、鳩ヶ谷を通過され、川口グリーンセンターに泊らされている。

### 赤山(神根)に記念碑

鳩ヶ谷浦寺(桜町)交差点から越谷街道を行くと、新井宿人口バス停の少し先左側に大きな石碑が立っている。「摂政宮殿下御小憩所・埼玉県知事従四位三等 土岐銀次郎謹書」と刻まれている。裏面にはつぎのように記されている。

摂政宮殿下御小憩所御事蹟

維時大正十一年三月二十六日畏クモ摂政宮殿下文武官数多従ヘサセラレ越ケ谷在鴨御獵場ニ行啓遊ハサル偶々御道筋タル赤山



摂政宮御小憩所記念碑

街道御通過ノ砌(みぎり)当村ノ此ノ地ニ於テ御下馬アラセラレ少時御休憩ノ光榮ヲ賜フ奉迎奉拜ノ村民等齊シク恐懼感

激(きょう)うくかんげき)措ク所ヲ知ラス乃チ碑ヲ建テ永ク聖蹟ヲ記念シ奉ル  
建立は「紀元千六百年記念、昭和十五年二月 神根村」とあり書は「浦和高等学校教授秦慧玉」石工は「当村 木村伝之助」となっている。

記者は早くからこの碑の存在を知っていたが、大正10年11月25日に大正天皇ご病氣で摂政にご就任後、4か月後のことわかった。王子、岩淵と進まれ、恐らく舟橋で荒川を渡られ、岩槻街道(12号)を北上、鳩ヶ谷町をお通りになつて赤山でご休憩になったものと思われる。



馬上から手をあげて鳩ヶ谷町民の歓迎に応えられる大行天皇。桜町の豊田元収入役宅前あたり——内田昭四郎氏蔵(本町2)

### 御歳21の若き日

その驚いたことには当時医師だった内田竹蔵氏故人宅(現在・昭四郎氏)に貴重な鳩ヶ谷ご通過の際の写真が現存することがわかった。ご厚意によりこの紙上に公開することができた。平服で馬上から、町民の歓迎に手をあげて応えられている。いかにも御律義な故陛下の人柄がにじみでている。藤の飯塚信一という人が「拝撮」して内田氏に贈ったものという。

当時の鳩ヶ谷の街並みや町民の姿、摂政宮にどう映ったのだろうか。御年21歳で、前年9月、欧州5か国訪問から帰国されたばかり。ちなみに、大正13年、良子女王とご結婚されている。

赤山の人によると「馬に飲ませる水を調査したところ、この水が一番よかったからだと言っている」と。

昭和55年5月の園遊会に招かれた屋間市長夫妻は、安佐式部長官に「埼玉県の鳩ヶ谷の市長です」と陛下に紹介された。

「市の方はどうですか」  
「小さな市なので財政的に大変です」

「どうかしら、やっぱり下さい」  
若き日、馬でお通りになったところの町の現市長とは、夢にも思われなかったのではあるまいか。

## ■ 史実 その式 ■

大正十一年一月二十九日にも「埼玉鴨場にご行啓された史実」が、前述昭和天皇実録(第三集)に記載されています。この時は、次記の通り、自動車にてご行啓され、鴨猟を行われたと記載されています。(※8)

埼玉鴨場に行啓

二十九日 日曜日 午前十時自動車にて御出門、埼玉鴨場に行啓され、鴨猟を行われる。この日お召しの侯爵小松輝久・宮内省御用掛山本信次郎・外務書記官沢田節蔵も供奉に加わる。御昼食は供奉員休憩所にお出ましになり、一同と共に同じ卓子・食器にてお召し上がりになる。この日の鴨猟は午前一回、午後二回行われるも不猟につき、カスミ網による雉追いが催され、御覧になる。○東  
従日誌、東宮職日誌、東宮内舍人日記、  
行啓録、宮内省省報、奈良武次日記、  
宮侍

### (付記)

あさかみやすひこおう

朝香宮鳩彦王 一八八七年(明治二十年)十月二十日〜一九八一年(昭和五十六年)四月十二日)は、日本の皇族、陸軍軍人。久邇宮朝彦親王の第八王子で、朝香宮初代当主。一九四七年(昭和二十二年)十月十四日に皇族の身分を離れ、朝香鳩彦と名乗る。最終階級は陸軍大将。勲等は大勲位功一級。また、「ゴルフの宮様」として知られる。陸軍大将であったため、朝香大将あさかたいしょうのみやでんか官殿下とも呼ばれた。※インターネットのウィキペディアより

## 三 結びにかえて

昭和天皇実録は、平成二十七年三月に発刊が開始されて以降、「天皇御崩御迄の実録」が平成三十年三月までに、順次発刊されると聞いております。

つきましては、冒頭表記しました昭和三十二年および昭和四十二年のご来駕の項が如何なるように記載されているのか、また、今迄越谷市史等に表記されていないご行啓史実の有無等につき、今回の調査をベースとし、さらに継続、補完をして参れればと思っております。

(※1)及び(※2)吉本 富男『越谷市史二 通史下』越谷市、一九七七、三九〇頁

(※3)越谷市教育委員会社会教育課／編『越谷の歴史物語(第三集)』越谷市、一九八三、二二〇頁

(※4)前掲書(※3) 二二二頁

(※5)宮内庁『昭和天皇実録 第三集 自 大正十年 至 大正十二年』東京書籍、二〇一五、五九七頁

(※6)石碑は、上記説明文表記の場所に現存しています。

(※7)『鳩ヶ谷新報 平成元年一月二十七日』鳩ヶ谷新報社、一九八九、三頁

鳩ヶ谷郷土史会／編『写真集 郷土はとがや・いま昔』鳩ヶ谷郷土史会、一九九六、二五頁

(※8)前掲書(※5) 五七五頁